

大念佛

No.90

発行／融通念佛宗
総本山 大念佛寺大阪市平野区平野上町1-7-26
TEL:06-6791-0026

題字：融通念佛宗 管長 吉村暉英



融通念佛の直授 元禄版本「融通大念佛縁起」

良忍上人は自ら融通念佛の行者となり、鳥羽上皇や女人百官はじめ街角で出会った人々に貴賤の隔てなく念佛の功德を説いて、「上一人より下万人に至るまで」の志で融通念佛を勧めました。そのとき帰入した一人ひとりを「名帳」に書き記しました（融通念佛勧進）。

現在でも六斎念佛など各地の念佛講に「ゆうづうねんぶつ なむあみだぶつ」のフレーズを聞くことができます。

良忍上人は延久四年（一〇七二）生まれ、十二歳で比叡山にて得度、以後勉学に励み若干二十一歳で修行僧を導く講主につきました。しかし二十三歳のとき、さらに自らの修行のため大原の地へ移り棲み、堂舎、仏像の造営、そして念佛修行に専念しました。（誕生年は諸説あり）

四十六歳となつた承久五年（一一七）五月十五日の昼時、少しまどろんでいると、夢の中に阿弥陀如来が現れて融通念佛の教えを直接されました。これが融通念佛宗の始まりになります。

融通念佛の教えとは、誰もが現世において往生（速疾往生）できる教えです。「自分が唱える念佛がみんなの功德につながり、みんなが唱える念佛が自分の功德につながる。それらの念佛が相合わさることによって大きな功德が生まれ、幸せな生涯を送ることができる。また、この世だけでなく来世の往生も間違はない。」

中世においても融通念佛は宗派の枠にとらわれない信仰として幅広く受け入れられ、宮中や寺院でも幾度となく融通念佛会が催されました。また多くの聖や僧侶が融通念佛を勧め、いくつかの系統に分かれながら「庶民の念佛」として津々浦々に浸透して行きました。

各地の民謡や盆踊り歌などの郷土芸能に発展したものも数多く残っています。

その盛んな永い信仰を支えたものに融通念佛縁起があります。戸時代まで融通念佛勧進のため製作されました。念佛聖達はそれを持ち歩き、融通念佛の功德は「貴賤上下道俗男女」の隔てなく広大であることを絵詞で庶民にも分かりやすく説いて回りました。

平安末期より宗門が百年以上途絶える空白の期間がありました。融通念佛は衰えることなく信仰されました。

現在でも六斎念佛など各地の念佛講に「ゆうづうねんぶつ なむあみだぶつ」のフレーズを聞くことができます。

宗門は元享元年（一二三二）法明上人によって石清水八幡宮に預けられていた法寶物を受け継ぎ復興されました。法明上人は大念佛寺の旧跡である修業寺を復興し、大和や河内の村々に念佛集団の講を組織しました。また晩年には現在の万部法要の中心でもある菩薩練供養を創始しています。

元禄二年（一六八九）、第四六世となつた大通上人は宗門の統一に尽力し、教学の確立、僧侶の教育、堂宇の整備、法寶物の整理など現在の融通念佛宗の基礎を築きました。

融通念佛宗の大きな行事の一つは開宗されました。良忍上人は延久四年（一〇七二）尾張一宮の富田荘（現東海市）に生れ、十二歳で比叡山にて得度、以後勉学に励み若干二十一歳で修行僧を導く講主につきました。しかし二十三歳のとき、さらに自らの修行のため大原の地へ移り棲み、堂舎、仏像の造営、そして念佛修行に専念しました。（誕生年は諸説あり）

良忍上人は延久四年（一〇七二）生まれ、十二歳で比叡山にて得度、以後勉学に励み若干二十一歳で修行僧を導く講主につきました。しかし二十三歳のとき、さらに自らの修行のため大原の地へ移り棲み、堂舎、仏像の造営、そして念佛修行に専念しました。（誕生年は諸説あり）

良忍上人は延久四年（一〇七二）生まれ、十二歳で比叡山にて得度、以後勉学に励み若干二十一歳で修行僧を導く講主につきました。しかし二十三歳のとき、さらに自らの修行のため大原の地へ移り棲み、堂舎、仏像の造営、そして念佛修行に専念しました。（誕生年は諸説あり）



大念佛寺境内



延曆寺 講堂

の若さで修行僧を教導する講主となりました。日本仏教で良忍上人や各宗の祖師などがここで学び、あるいはここで出家得度している事から、「日本仏教の母」として仰がれています。大講堂には良忍上人など比叡山で修行した各宗派の宗祖の木像が祀られています。

比叡山延暦寺

京都市と滋賀県大津市にまたがる天台宗総本山で、寺院の境内は標高八四八メートルの比叡山全域です。比叡山と呼ばれる



大原 来迎院



毘沙門天王

鞍馬寺は、京都府京都市左京区にある毘沙門天信仰の鞍馬弘教の総本山です。

ある日、融通念佛を広めていた良忍上人に青い衣の僧が訪ねてきました。結縁帳に名前を記すとすぐに姿を消し、不思議に思い帳を確認すると「鞍馬寺のみ沙門天王が念佛結縁者を守るために来た」と書かれていました。

その年に鞍馬寺に参詣し念佛を

鞍馬寺

鞍馬寺は、京都府京都市左京区にある毘沙門天信仰の鞍馬弘教の総本山です。

ある日、融通念仏を広めていた良忍上人に青い衣の僧が訪ねてきました。結縁帳に名前を記すとすぐに姿を消し、不思議に思い帳を確認すると「鞍馬寺の毘沙門天王が念仏結縁者を守るに來た」と書かれていました。



本殿金堂



↑⑧長野県 善光寺

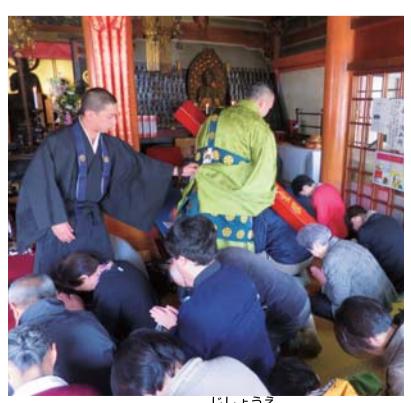


大治二年（一一二七）、良忍
上人が諸国遊行の途次に四天王寺で一宿した際、夢に聖徳太子



西大門

が現れて——ここ（四天王寺）より東南杭全の里に念佛道場を建つべし」とのお告げを受け、鳥羽上皇の勅願を賜り建てられたのが融通念佛宗總本山大念佛寺です。この事を機縁に現在も春秋彼岸の中日には、四天王寺阿弥陀堂にて、大念佛寺僧侶によつて「時正会（融通大念佛会）」が勤められています。



阿弥陀堂での時正会の様子

地は、古代には朝廷の台所に水産物を供進する所でありました。このような古代以来集落がありました御厨にありながら当寺の由来が明らかになるのは江戸時代に近い安土桃山時代に入つてからであります。

当寺が位置しております御厨の地は、古代には朝廷の台所に水産物を供進する所でありました。このような古代以来集落がありました御厨にありながら当寺の由来が明らかになるのは江戸時代に近い安土桃山時代に入つてからであります。



(東大阪市)



阿弥陀三尊

念佛寺の主な年中行事	
一月一日	修正会
二月三日頃	節分大護摩法要
三月八日	御回在
三月彼岸	春季彼岸会
四月八日頃	花まつり
八月十五日	精靈送り・万灯会
八月二十二日	法界施餓鬼会
九月彼岸	秋季彼岸会
十一月	十夜法要・永代祠堂法要
毎月十八日	煤掃い
毎月二回	写経会



觀音堂



地藏菩薩

には享保六年（一七二二）の年号とともに「御厨村融通念佛講中」と刻まれてあることから、当寺を中心とする念佛講の活動の有様がしのばれます。当寺の什物の中には元禄十三年（一七〇〇）の墨書きがある三界萬靈碑や文政二年（一八一九）の年号が刻まれた五如来碑があり、いずれも施餓鬼法要（現在八月二十二日）に用いられるものであることから、この法要が古くから勤められていたことが知られます。

境内には当寺開山念譽道心法印（正保三年寂）を始め慶安四年（一六五一年）銘の六字名号碑等多くの石碑があります。



(寝屋川市)

寝屋川市太秦の地に太秦寺があり、太秦寺境外門前には、地蔵堂があります。

その昔は、太秦寺の境内に位置していましたが、時代を経て境外になつたようです。現在は自治会の皆さんで管理してくださっています。

堂内には、地蔵菩薩、閻魔王、雨乞いの社、十三王図の屏風などが安置されています。

例年八月末に二日間行う地蔵盆には、子ども達がお参りし、読経が終わると観音講の皆さんが鉢を打ち、御詠歌を奉納します。

昭和初期ごろまでは、古くから太秦に伝わる鎌倉踊り（念佛踊りの一種）を太鼓に合わせて踊り、夜店が出て大変賑わつたと聞きます。

実はこの地蔵堂は、南を背にして北を向いて建てられています。北は上座、南は下座とのいわれがあり、敬う者を南向きに配置するのが良いとされ、一般的には北に向かないように配されるのですが、この地蔵堂のお地蔵さまはあえて北を向くことで、民衆を上座に据えています。

その隣に祀られている、雨乞いの社は、一番最近では平成十二年に開鏡。空梅雨の上、酷暑が続き、琵琶湖の水位が危ぶまれた折に、供物を揃え、読経のもとたくさん

の木片を燃やし祈りました。煙が立ち上るとパラパラと雨が降り始めた不思議な体験に、驚き、感激したと聞きます。

このように、昔からずっと太秦の地を見守つて下さるこの地蔵堂は、村の人々の心のよどぎくなっています。

この隣に祀られている、雨乞いの社は、一番最近では平成十二年に開鏡。空梅雨の上、酷暑が続き、琵琶湖の水位が危ぶまれた折に、供物を揃え、読経のもとたくさん

の木片を燃やし祈りました。煙が立ち上るとパラパラと雨が降り始めた不思議な体験に、驚き、感激したと聞きます。

この隣に祀られている、雨乞いの社は、一番最近では平